

JAPAN HERITAGE

日本遺産

認定されたストーリー

古代人のモニュメント

— 台地に絵を描く 南国宮崎の古墳景観 —

日本独自の形である前方後円墳という古墳が造られた時代。宮崎平野でも西都原古墳群を始め多くの古墳が造られました。列島各地であまた造られた古墳のある景観(風景)は、時の移ろいの中で様変わりますが、宮崎平野には繁栄したときに近い景観が今も保たれています。

古墳の姿形が損なわれることなく、古墳の周りに建築物がほとんどない景観は全国で唯一です。

古墳を横から、上から斜めから。いろんな形と古墳のある景観を楽しんでみませんか？



全国屈指の大古墳群 - 西都原古墳群 -

古代人のモニュメント — 台地に絵を描く 南国宮崎の古墳景観 —

【「古墳」の世紀】

紀元3世紀から7世紀にかけての日本列島では、土を盛り上げたお墓”古墳”を造る文化が各地で栄えました。上から見た形が鍵穴のような「前方後円墳」、丸い「円墳」、四角の「方墳」など、その数はなんと約16万基以上。当時の人々にとっての古墳とは、人物の地位や実力を大きさや形で表現した、いわば記念碑(モニュメント)でもありました。そうした古墳をすべて人力で築き上げた古墳時代とは、日本の歴史上初めての「土木工事ラッシュ」の世紀だったのです。

列島各地の古墳は、長い時の経過とともに、その多くは損なわれました。しかし、唯一、宮崎平野の台地には、古墳の姿形が損なわれることなく、古墳の周りに建築物のほとんどない景観が広がっています。そうした古墳景観の世界をたどってみましょう。

【造られたときに近い古墳景観—西都原古墳群—】

西都原古墳群は宮崎平野を流れる一ツ瀬川西岸の台地上にあり、東西2.6km・南北4.2kmの範囲に300基以上が分布する全国屈指の大古墳群です。その特徴は、なんとといっても古墳の形がよく残され、木々も生い茂ることなくおよそ1400年以上前の、古墳が造られた頃に最も近い景観が今も保たれていることです。

ここには、前方後円墳が台地の縁に沿って立ち並び、前方後円墳の間には円墳がキッシリとすき間なく造られています。台地の小高い丘(高取山)の麓には、ひととき大きな古墳が2つ。女狭穂塚古墳と男狭穂塚古墳は圧倒的な威容をたたえ、南九州の雄として君臨する勢力の大きさを表しています。また、土星のような形の「鬼の窟古墳」は円墳の周りに土塁が巡る全国的にも珍しい形で、岩で出来た石室がほっかりと口を開け、その内部空間に入ることができます。さらに、数は少ないですが、方墳も造られました。

豊かな自然環境のもと、交通の要衝であった西都原では、約400年の歳月をかけて古墳づくりに励みました。その結果、青い空と緑の山々を背景にした壮大なパノラマの古墳景観が生まれたのです。そこには時間が止まったような別世界の空間が広がり、訪れる誰もが古代の人々になったような錯覚に陥ることでしょう。朝日夕日に輝き月夜の下で照らされる古墳は、昼間とは趣が異なって神秘的な雰囲気が漂います。小高い古墳の頂きや高取山の展望台に立てば、大きな鍵穴の間に無数の小さな水玉が見え、それはまるで台地に絵を描いたかのようです。秋冬の季節は古墳の色が緑から茶や赤色などに変わるので、春夏の頃とはひと味違う光景になります。

【西都原古墳群の周辺に広がる様々な古墳景観】

西都原古墳群の他にも、建築物が周りにない古墳群が広がっています。-

新田原古墳群 一ツ瀬川東部の台地上にあり、見渡す限りの広大な田畑の中に、水神塚、機織塚、百足塚などと名付けられた前方後円墳をはじめ、円墳や方墳が浮かぶように点在しています。古墳時代の人々が造った古墳と、後世の人々が生み出した田畑が共にある景観は、古墳の存在を壊さずに開墾されたことで形作られましたが、そこには現在に続く古墳へ畏敬の念が根底にあったのです。また、百足塚古墳から出土した古墳時代の暮らしぶりをイメージさせるユーモラスな埴輪も見ることができます。

生目古墳群 大淀川河畔の小高い丘陵に広がるこんもりとした木立の群れ。実は、前方後円墳や円墳の今の姿です。その一角に、ひととき輝く前方後円墳が一つ。白い石で表面を覆った当時の姿に復元されたもので、その頂きに立てば、昔日の威容と造形美、古墳造りのエネルギーが体感できます。生目古墳群には、古墳が造られてから悠久の時間を感ぜさせる森と化した古墳と当時の姿に復元された古墳が対照的に体感できる景観が備わっています。

蓮ヶ池横穴墓群 海辺に近い蓮の花の咲く池のほとりにある。列島最南端の横穴墓です。丘陵の固い岩盤に横穴を掘って造ったお墓で、造り終わった後は、丘陵全体が照葉樹や落葉広葉樹の森林となり、忘れ去られた様にひっそりとたたずむ景観になりました。今も自然のままに時を重ねています。

【「古墳」の世紀を体感する】

多くの古墳があることで、女狭穂塚古墳に埋葬されているとされる木花咲耶姫の話を始め、古墳に関わる数々の神話や伝説、祭事などが生まれました。また、生目古墳群(4世紀)→西都原古墳群(5世紀)→新田原古墳群(6世紀)、さらに蓮ヶ池横穴墓群(6~7世紀)へと、繁栄を極めた順に巡ると、南九州の豪族達の栄枯盛衰を感じることができ、副葬品や埴輪といった古墳からの出土品を鑑賞することで、古墳時代の生活を体感できます。

このような古墳の楽しみ方ができるのは、宮崎平野の古墳群だけです。さあ、ゆっくりと古墳探訪のひとときを過ごしてみませんか。

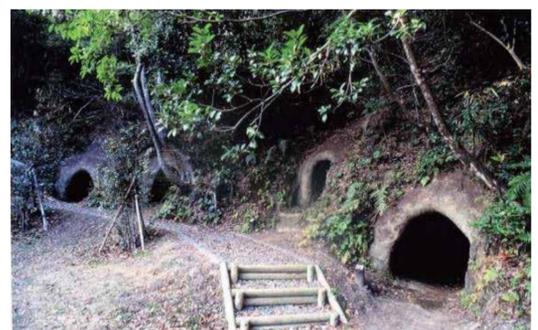
平成30年5月24日認定



白垂に輝く古墳 - 生目古墳群 -



田園の中に点在する古墳 - 新田原古墳群 -



森林の中にたたずむ景観 - 蓮ヶ池横穴墓群 -



鬼の窟古墳



百足塚古墳の形象はにわ



伝西都原古墳群出土金銅装馬具(レプリカ)



下北方古墳出土遺物



西都古墳祭り

西都市・宮崎市・新富町